

すずかんの

医療改革の「今」を知る

「現場からの医療改革推進協議会」に注目してください。

第16回

昨

今、さまざまな医療問題が取りざたされていますが、これは医療者だけの問題ではなく、社会システムの問題でもあります。問題を解決するためには広く社会の各分野の人々が問題を共有する必要があります。しかし、

そのような場が存在しないのが現状です。

そういったなか、

11月25、26日の二日

間にわたって、私が

事務総長を務める

「現場からの医療改

革推進協議会」の第

一回シンポジウムが、

東京大学医学研究

所大講堂にて開催さ

れました。医療、研

究、政治、メディアの場から

幅広く多くの方々にご参加い

ただき、盛会に終わりました。

初日は、土屋了介国立がん

センター中央病院長や、林良

造東京大学公共政策大学院教

授から、立場を超えた連携、

協働の重要性についてお話を

頂いた後、医療現場の実態報告から始まりました。虎の門病院泌尿器科部長の小松秀樹氏は、日本人の死生観の変化

にとまない、医療の不確実性

を受け入れない患者、メデイ

ア、行政・司法からの厳しい

糾弾で、医療者の士気が低下

していることを指摘しました。

議論はメディアの役割へと

移り、フジテレビ報道局解説

委員の黒岩祐治氏らが、福島

県立大野病院事件の報道など

を事例に意見を交わしました。

翌日には、さらに深刻な小

児科・産科医の不足にも話は

及び、産婦人科医療提供体制

検討委員会委員長の海野信也

氏は、若い医師が働きやすい

環境作りの必要性を、また、

亀田総合病院長の亀田信介氏

は、病院経営者の立場から医

師確保への創意工夫を述べま

した。

最後を飾ったのは医療紛争

処理制度。訴訟が被害者のた

めにも医療者のためにもなっ

ていない問題を解決するた

め、メデイエーターや裁判外紛争処理制度といった訴訟前の解決を促す仕組みが提唱されました。

討論には民主党衆議院議員

の仙谷由人氏、自民党参議院

議員の舛添要一氏らの国会議

員も加わり、白熱した議論が

交わされました。また、日本

医学会会長の高久史磨氏もご

臨席になりました。

このように異なった分野の

方々が一堂に会し、本音をぶ

つけ合い議論することは、今

までなかったことであり、今

後がおおいに楽しみます。

皆さまもどんどんご意見を

お寄せください。

現場からの医療改革推進協議会事務総長、
中央大学公共政策大学院客員教授、参議院議員

鈴木 寛



すずき・かん ●通称すずか
ん。1964年生まれ。慶應義
塾大学SFC環境情報学部助
教授などを務める。教育や
医療など社会サービスに関
する公共政策の構築がライ
フワーク。